

平成27年度 磐田市立長野小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察○改善策※	学校関係者評価委員から
やさしい子	◎「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子を育てる ・挨拶や言葉遣いに関する授業を実施する ・「ありがとう」「ごめんなさい」を使う場を捉えて指導する	あいさつや返事ができる	B	○挨拶の中でも「ありがとう」「ごめんなさい」に重点を絞り、場を捉えて繰り返し指導をしてきた。また児童会の活動として、「ありがとうカード」を活用し、子どもたち同士が「ありがとう」を伝え合うことに取り組んできた。そのため、「ありがとう」と言える子が増えてきている。さらに、教師は「ほめほめカード」を活用し、子どもたちのよさを見付け伝えるように取り組んできた。これらは、来年度も継続していく。 ○「一人もひとりにしない」を合言葉にし、ルールやマナーを守ることを大切にして、継続して指導してきた成果が表れ、学校全体が落ち着いてきている。行事や活動を精選しゆとりが生まれたことで、授業や学級経営等にとじっくりと取り組めるようになったことも、落ち着きにつながっている。 ※来年度は「ありがとう」「ごめんなさい」を自分から進んで言えるように、繰り返し指導をしていく。 ※人間関係プログラムを活用したり、各教室の「命と言葉を大切にするコーナー」を継続したりするとともに、道徳や学級活動の授業を大切にし、さらに子どもたちの心を耕す。	・「ありがとうカード」のように子どもたちが考えた取り組みは盛り上がってよい。互いに褒め合う雰囲気生まれる。 ・地域や家庭で、とてもよい挨拶ができるときがある。強化週間等を設けることにより、さらに定着が図られるのではないだろうか。 ・「ほめほめカード」の取り組みについては、普段あまり目立たない子も褒められるよい機会となるのではないかと。
		「ありがとう」「ごめんなさい」が言える	B		
		学校を楽しんでいる	A		
		友達の気持ちを考えて行動している	B		
かっこいい子	◎学習習慣を身に付け、自ら学ぶ子を育てる ・学習の約束を徹底し、学習ルールの定着を図る ・手引きやガイドを活用し、家庭学習の充実を図る	授業の内容が分かっている	B	○学習の約束については、だいたい共通理解が図られてきているが、学習の構えとしての態度と物の準備については、引き続き指導が必要である。 ○昨年度より、学期末テストを実施する1週間前を「長野っ子学習週間」と設定し、学年便りで保護者にも啓発を図ることを継続しており、家庭学習を充実させる工夫をしている。また、高学年では自主学習ノートを使用し、自主的に家庭学習に取り組めるようにした。しかし、家庭学習への取り組み状況には個人差があり、家庭学習の手引きやガイドを参考に組み立てるよう、今後も家庭への啓発を図っていく必要がある。 ※学習の約束の一つである「1分前着席」を徹底できるよう、「強化週間」を設けて重点的に指導をする。 ※授業の中で、ペアやグループで自分の考えを伝える場を設けたり、終末に自分の学びを振り返る場を設けたりすることで、「分かった・できた」という学びの実感をもてるようにする。	・子どもの学習の様子や定着させるための手立てについて、保護者ももっと先生に連絡を取り、話ができることよい。高学年では連絡帳を使わなくなることが多いが、積極的に活用し、連絡を密にできるとよい。 ・家庭での子どもとの会話や、先生と保護者との会話など、「たくさん会話をする」ことが大事である。
		始業前の準備・着席ができる	B		
		決められた時間、家庭学習をしている	C		
		進んで先生に聞いたり、自分で調べたりして学習している	C		
たくましい子	◎めあてに向かって努力する子を育てる ・清掃リーダーを中心に、黙勤を徹底する ・通学班会で定期的に登下校の状況を確認し指導に生かす ・外で体を動かす活動を工夫する	黙って清掃をしている	A	○昨年度よりさらに黙って働くことができるようになり、学校全体が落ち着いて清掃に取り組む、それが当たり前という雰囲気が生まれてきている。 ○体力向上に向けての活動や行事(運動会・持久走・長なわ等)に対し、自分や学級の目標を立て、意欲をもって練習に励むことができた。 ※登下校については課題があったため、登下校のルールを教師・子ども・保護者に示して指導を徹底するとともに、子ども自身にも自己評価をさせ、安全に安心して登下校ができるようにする。 ※子どもたちが楽しんで運動に取り組むながら自然に力が付くように、体育の授業や体育的行事、遊具や教具等の工夫をする。	・運動会や持久走、長縄等、昨年度と実施方法が変わっているところがあったが、子どもたちが一杯挑戦する姿が見られたよい大会であった。保護者のボランティアの協力も多く、理解を得ることができてよかった。
		きちんと並んで登下校をしている	B		
		よく外に出て元気に体を動かしている	B		
		子どもの体力向上に向けて行事や場の工夫をしている	A		
家庭・地域との連携	◎地域を理解し、親しみをもたせるとともに、豊かな感性を育てるための龍門館教育の継承を図る ・本校の教育活動について理解してもらうための広報活動を充実させる	龍門館教育の伝統や地域を生かした特色ある教育活動を進めている	B	○総合的な学習、読書活動、登下校指導、放課後子ども教室での学習など、保護者や地域の方の協力で支えられて充実した活動ができている。今後も地域との結び付きを大切にしたい。 ○地域の歴史や自然に関心があると答える子は毎年多くはないが、昨年度と比べると子どもと教師の評価が上がっている。今後も地域とのかかわりを持ち、子どもたちの意識が高まるような支援や価値付けをしていきたい。 ※保護者に教育内容をより理解していただくために、PTA総会の際、学校の取り組みについての説明を行うとともに、学校便りやホームページでの情報公開を積極的に行う。	・子どもたちが学習ボランティアの方へ感謝の手紙を出し、それに対するお礼の手紙が届いていたことを、掲示物から知った。このように、地域も子どもたちに対して「ありがとう」という気持ちをもつことが大切である。地域で子どもを育てるという意識をもちたい。 ・「地域に元気を与えられる学校」と「学校に元気を与えられる地域」という関係づくりをしていきたい。
		めざす子どもの姿や、取り組んでいる教育内容などについて知っている	B		
		保護者・地域の方に学校の様子などの情報公開を行っている	A		
		子どもは住んでいる地域の歴史や自然について関心がある	C		

学校関係者評価を受けてのまとめ

本年度の教育活動について、高い評価を得た。参観会での子どもたちの姿と学校評価の結果を通して、学校全体がよくなっているという評価をいただき、来年度の経営方針や教育課程についても、分かりやすいという評価をいただいた。また、保護者・地域と学校がより強く結び付くことに対する前向きな御意見もいただいた。話し合いを通して、保護者や地域の方と職員とが会話することが、学校を支えていただく第一歩となり、子どもたちが地域の中で豊かに成長することにつながると感じた。